

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770301950		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム郡山日和田		
所在地	郡山市日和田町字財ノ木原15-4 (電話) 024-968-2550		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	30 人	常勤 27人, 非常勤 3人, 常勤換算	21.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	1 ~ 3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,250 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 8 名	女性 19 名
要介護1	7	要介護2	8
要介護3	6	要介護4	4
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひわだ太田診療所、本間医院、ニコニコ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、近くに川が流れ田畑も広がる一方で、昨年にはなかったというビルが隣接して建設され、開発が進む地域に立地している。
職員一人ひとりが利用者に対して丁寧な言葉遣いと態度で接しており、意欲的に仕事に取り組もうとする姿が伺えた。退職した職員が訪問するなど、利用者と職員、職員間において良い関係を築いている印象を受けた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において指摘された項目に関して、それぞれ改善に向けた取り組みがなされていた。しかし、様式を作成したが記録内容が十分でないなどの課題が残る。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットの入り口に、自己評価結果を誰でも自由に見られるよう掲示しており、また結果に沿って、改善に取り組んでいた。しかし項目によっては、評価のねらいが十分理解されておらず、結果に結びついていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は、定期的な開催や家族の参加者数を増やすなどの改善が行われていた。また、会議開催毎にホームの状況報告を実施し、地域への協力要請や、災害時における応援などに関して検討を重ねているが十分ではない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月家族に対して、利用者の写真と共に生活状況の報告をしている。面会時に、積極的に声をかけたり、また半年に1回家族アンケートを実施して意見や苦情等の把握に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入をしており、散歩や買い物の際に地域住民に挨拶をしたり、地域公民館活動に参加をしている。また事業所が開催する夏祭りには多くの地域住民が参加するなど交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の3つ理念を作成し、その実現に向かって職員は努力している。職員は理念を十分理解し、自分の言葉で説明することができる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、各ユニットで、さらに職員一人ひとりが目標を掲げ、実現に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入をしており、地域公民館活動に参加をしたり、また事業所が開催する夏祭りには多くの地域住民が参加するなど交流を図っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットの入り口に、自己評価結果を誰でも自由に見られるよう掲示しており、また結果に沿って、改善に取り組んでいた。しかし項目によっては、評価のねらいが十分理解されておらず、結果に結びついていない点が残念である。	○	前回評価における改善課題は、改善に向け努力している点を確認できたが、記録等で取り組みの結果を具体的に確認することができなかった。課題改善に取り組む意義を全職員で共有し、その結果を記録に残すようにして欲しい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、家族も各ユニットからの参加に改善されている。会議記録から、ホームからの報告や家族の意見も読みとれるが、災害時の地域住民との協力体制に関して進展が見られない。	○	運営推進会議で懸案となっている議題に対しては、事業所からの具体的な活動報告と共に、要望についても示し、実現に向けた意見の聴取を進めてほしい。
6	9				
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者の生活状況を、写真付きで毎月家族に送付している。金銭管理に関しては出納帳のコピーと領収書を家族へ毎月送付し報告を行っている。また職員の異動についても文書で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見や要望を聴取し、また半年に一度、家族に対してアンケートを実施しその内容を職員が閲覧できるようにしているが、その改善結果について報告が十分行われていない。4月に家族会を開催し、自由に話し合える場を作る予定である。	○	アンケート等から得た意見や要望に対して、事業所として結果をどのように受けとめ対処し、運営に活かしているかについて、速やかに利用者や家族へ報告できるよう検討して欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事評価制度により職員にやる気を持たせたり、情報交換や仲間づくりを奨励し、離職を押さえる努力をしている。またユニットを超えて利用者全員とかわるようにし、新人が入った際は、情報を伝えるようにしている。	○	今後も、職員の離職や異動を最小限に抑えるよう、また新しく入った職員がスムーズに引き継げるよう利用者や家族に不安を与えない取り組みや配慮を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職に応じた内部研修を実施し、また各ユニットにはリーダーを配置して現場で実践教育をしている。外部研修にも参加させている。しかし、研修の報告や記録が十分ではない。	○	研修の記録が全員から提出されておらず、また研修報告も短時間のため内容を生かし切れていない。必要なテーマによっては伝達研修をするなど、内部研修内容の充実を図って欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される研修会に参加して交流の機会を設けたり、他事業所に移った職員との交流を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備を一緒に行いながら、メニューをきっかけに調理方法を教えてもらったり、利用者から学んだり、互いに支えあう関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを大切にしている。利用者がふと口にした言葉や背景を家族から伺い、ニーズの把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成に職員の意見が反映され、具体的に表記されており、家族とも話し合って作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画変更に至らない例として記載された「気づきシート」には、短期的な変化とその対応について記載されているものの、その後いつまでそうしたのか、通常の計画にいつ戻ったのかなどについての記載がない。	○	実際にはきめ細やかに対応できていることをヒアリングで確認できたが、その経緯が記載されたものがないため、実施の有無が不明である。日時を入れて記録を残す(何をどのように、は要検討)書式や、記載のための仕組みを作っていってほしい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からかかりつけ医がいる場合は継続し職員が通院の介助を行っている。かかりつけ医がいない利用者に対しては、近くの往診をしてくれる医療機関を紹介するなどしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療体制指針ができており、家族へも交付し、主治医等と話し合っその経緯を文書にまとめて記録している。しかし、その後どうなったかについての記載がない。重度化や終末期においては、状態の変化や気持ちの揺らぎが当然あるので、それに対応する書式が十分でない。	○	利用者の状態の変化のたびに繰り返し、家族や主治医を交えて話し合いを持ち、方針の確認をする体制とその経過が分かる書式の検討を進めて欲しい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフは皆丁寧な言葉掛けをしている。また、排泄介助の際も、周囲の方に気づかれないように言葉かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、買い物や散歩などを行っている。起床や就寝時間は制限せず、利用者本人のペースで行われており、入浴も好きな時間に入ることができる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かして一緒に買い物へ行ったり、調理の準備や配膳の片付けなどを職員と協力して行っている。また一緒に食事を食べながら、食材や料理を話題に会話したり、食事を楽しめる雰囲気作りに心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、曜日や時間帯を決めている。入浴中はくつろいだ気分でご過ごせるよう支援しており、入浴に消極的な方へは、お誘いの声かけを工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の趣味・習慣・できることを把握し、好きな歌の本と一緒に作成したり、食事のメニューや掲示物の表題を書いてもらったりしている。また、月に一度は利用者の思い出の場所へ行って楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	各ユニット毎に毎日外出の機会を設け、散歩を楽しんだり、希望があれば買い物へ出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全フロアの扉は常に開錠しホーム内を自由に行き来できるようになっているが、玄関は散歩に行く30分程度の時間帯以外は終日施錠されている。	○	鍵が掛けられていることによる弊害に関して再度検討し、利用者が閉じこめられたと感じないように、どのような見守りができるかを話し合ってもらいたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の実施、地震と火災を想定した訓練を毎月交代で実施(火災報知器のボタンを押し、普段使っていない避難用のドアへの誘導)している。また地域への協力や避難場所の検討を依頼しているが返答を得ていない。	○	台所がユニットの中央にある構造から、時間帯や職員体制を考えその時々、利用者がどこにいて、職員がどのような避難誘導ができるかをシュミレーションしてみるなど具体的な状況に沿った検討をし、その際地域住民に対してどんな協力を依頼するかなど検討をしてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示がある人以外でも水分摂取の目標を掲げて取り組んでいた。また水分量の管理が必要な方は、介護計画に明記し、水分チェック表に記載を行っている。	○	チェック表の記載内容は、食事とおやつの際の摂取量のみであり、目標量に不足していた。確認すると他に散歩の前後や入浴の際などにも水分を摂取しているため、全摂取量が分かる記録様式にて対応すること、不足した際の対応に関する記載を行ってほしい。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の明るさは外部からの光の入り具合を考え調節していた。壁紙やカレンダーは利用者と共に季節に合わせたものを作成し、居心地良く工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム備え付けの備品以外にも自宅から持ち込んだ家具や個別の暖簾などにより、各部屋に個性が感じられた。寝具も使い慣れたものを使用できる。		



は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 愛の家グループホーム 郡山日和田
記入担当者名 平石 文紀

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。